



花川小コミスクだより

No.3 R8.10.15

回 覧



学校支援コーディネーター紹介

学校運営協議会は特色ある学校づくりを進める「仕組み」です。学校の力だけでは難しい部分をバックアップしてもらうために、様々な方から力を借りています。その際、**学校と地域をつなぐ役割を担っているのが「学校支援コーディネーター」**です。学校に必要な講師を探したり、ボランティアを募ったりして、子供たちが安心・安全で豊かな体験ができるよう支えてくださっています。今回は、花川小学校の学校支援コーディネーターである佐々木聡さん、田中朋子さんのお二人を紹介します。

Q 佐々木さんは、学校支援コーディネーターとして何年目になりますか？

佐々木：今年、7年目です。花川小学校運営協議会を立ち上げた1年目から、委員として関わりながらコーディネーターを務めてきました。（委員は2期6年で交代になるため、今年からはコーディネーターのみ）



田中 朋子 さん 佐々木 聡 さん

Q 具体的には、どんな活動をしていますか？

佐々木：先生方から要望のあった地域人材を探します。地域探検で訪問する先とつないだり、北部協働センターと連携してクラブ活動や家庭教育講座の講師を探したりします。初めは地域の知り合いに声を掛けるところから始めました。コーディネーターの活動を通して、地域には協力してくれる人がたくさんいることを知りました。

Q コーディネーターを続けている中で、活動の仕方が変わってきたことはありますか？

佐々木：花壇ボランティアは、初めはボランティアだけで花壇の草取りや植え付けをしていましたが、少し前から、子供たちも参加するように変わりました。



6月の花壇整備の様子

また、今はPTAと地域としっかりと連携できていると感じます。プール清掃やグラウンド整備など、地域消防団だけでなく保護者も多数参加してくれました。そこに、子供たちが加わり、**親と地域が協力していることを子供が感じられるよい機会となっている**と思います。



Q 田中さんは、昨年の10月からコーディネーターとなったそうですが、その前は、学校とどのように関わっていましたか？

田中：読み聞かせのボランティアとして長く携わってきました。また、PTA 会長という立場で学校運営協議会に関わっていました。

Q 「読み聞かせボランティア」については、先日の参観会の折にも、参加者を募る呼び掛けをしてくださいました。ボランティアとして関わる中で、どんなところにやりがいを感じていますか？

田中：子供たちの成長過程が見られることは、**楽しみの一つ**ですね。1年生で入学してきた子供たちが、学年が上がるごとにその時々の変化を見せてくれ、成長していくのは、自分の子供を見るのとはまた違った楽しさがあります。以前、感謝のメッセージをもらったことがあり、メッセージの中にどんな本が好きなのかを書いてくれる子がいて、そういうこともうれしく、励みになりました。



読み聞かせボランティアについて
説明する田中さん

Q 今後の課題や展望について教えてください。

佐々木：ボランティアのメンバーが固定していることもあり、**新しい人材を求めています**。家庭科のミシンボランティアなど、先生方の異動でニーズも変わってくるので、**学校運営協議会で直接先生方とも話をする機会は大変貴重**だと実感しています。今後も、実際に授業をされている先生方とより簡単に情報交換ができるようになっていくとよいと考えています。

田中：**読み聞かせボランティアは、仲間を募集中**です。知り合いから誘われたとか、友達と一緒にというボランティアも始めやすいと思います。自分から一步を踏み出すのはなかなかハードが高いかと思いますが、低学年の保護者の方は、お子さんを迎えに来る際に、ほんのちょっと早く来て教室をのぞいてみてください。**まずは、「見学から」**お待ちしております。

また、花川地区の皆さんだけでなく、中学校区から広くボランティアを募っていくのも一つの方法だと考えています。どんな活動ができるのか可能性を探っていきます。



花川小コミスクだよりでは、今後も学校運営協議会やボランティア活動について発信をしていきます。コミスクだよりを通して、保護者・地域の皆様にコミュニティスクールについて周知を図っていきます。知りたい情報がありましたら、ぜひ、学校まで御意見をお寄せください。